

第15回若手科学者によるプラズマ研究会 平成24年3月14-16日 原子力機構 那珂核融合研究所

原型炉開発に向けたJT-60SAにおける研究開発

日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門 鎌田 裕



核融合研究開発

日本が主導する世界の科学。

エネルギー開発を目指した先端の科学・技術。 要素技術開発とシステムの統合。

発見、エ夫、思想がシステムを魅力的にする。

人類の役に立てる 研究開発として面白い

「システムの構築」

目標へ向け、

構成要素を開発し、それらを最適に統合し、思い通りに制御する。

炉心プラズマはシステムであると同時に、核融合炉の構成要素である。



炉心プラズマ研究開発の目標



- ITERのための「プラズマが自分を暖める」
 燃焼プラズマの研究
- ・原型炉に向けた、高ベータ高自発電流割合
 プラズマの定常化研究

ITER燃焼プラズマ

原型炉に必要な高い「総合性能」の 「定常」維持

必要な要素性能を高い次元で統合 =システムとしての最適化

核融合炉の信頼性・安全性・経済性 の向上を目指した研究開発





幅広いアプローチ活動におけるサテライトトカマク計画と トカマク国内重点化装置計画の合同計画=> 核融合炉の早期実現

OITERの技術目標達成のための支援研究 O原型炉に向けたITERの補完研究 臨界条件クラスのプラズマを長時間(100 原型炉で必要となる高出力密度を可能と 秒程度)維持する高性能プラズマ実験を行い、 その成果をITERへ反映させる。

する高圧カプラズマを100秒程度維持し、原 型炉の運転手法を確立する。

4

JT-60を超伝導装置として改修。我が国唯一の大型トカマク装置であり、世界の核融合実験装置の中 で、ITERに対して最も大きな支援を行なう能力を有するとともに、ITERでは実施が難しい高圧力プラズ マ定常化研究開発を実現できる世界で唯一の装置。 欧州が200億円を越える大型の資金をわが国設置の装置に投資する初の事例。







プラズマ電流5.5MA、プラズマ体積130m³で、高形状ファクター(S=q₉₅I_p/(aB_t) ~7) ・アス ペクト比2.5を含む多様なプラズマ配位の自由度と41MAx100秒の加熱パワーを有する。



JT-60S	Aのプラズ	マサイス	ぐ~ 0. !	5 x ITE	7
超伝導	トカマク	(SST-1,	EAST,	KSTAR,	TORE-
supra,	JT-60SA,	ITER)	の総合	的知見て	「原型
炉に向	けた信頼	生の高い	科学技	術を確立	する。

プラズマ 電 流 I _p	5.5MA
トロイダル磁場 B _t	2.25T
大半径 R _p	2.97m
小半径 a _p	1.18m
非円形度 κ _x	1.93
三角度 δ _x	0.5
表面安全係数 q ₉₅	3
プラズマ体積 V _p	133m ³
フラットトップ時間	100 s
加熱・電流駆動パワー	41MWx100 s
垂直入射 NBI	16 MW
接線入射(Co) NBI	4 MW
接線入射(CTR) NBI	4 MW
負イオン源NBI	10 MW
ECRH	7 MW
プラズマ対向機器熱負荷	15 MW/m ²
中性子の年間発生量	1.5 x 10 ²¹



H24年1月末までに日欧合計18件(日本調達分10件、欧州調達分8件)、サテライト・トカ マク総事業費に対して75%(日本分76%、欧州分74%)の調達取り決めを締結し、順調に 機器製作を進めている。JT-60の解体等、機器受け入れ・組立て準備も着実に進展。





超伝導導体・コイルの製作





JT-60SA真空容器の製作





JT-60の解体:H24年12月の組立開始に向けて順調に進展

H23年度:震災の影響は軽微で、H23年度予定分のトカマク本体の解体・撤去を順調に実施中。



H24年12月

国内初の放射化した 核融合装置の解体は、 記録に留めるべき 技術資産

H23主要作業:真空容器を切断し、その切断部から 全18個のトロイダルコイル(約90トン/個)を吊り出し、 機器収納棟に保管する。

欧州からクラ イオスタット ベース搬入



真空容器切断





機器収納棟に保管



JT-60SAの設計思想

ITER・原型炉を「直接見通せる領域」

無次元量(規格化衝突度、規格化ラーマ半径、ベータ値)でほぼ同等:コア&ペデスタル 有次元量(温度、密度)でほぼ同等:特にダイバータプラズマ 十分な高速イオン(NNB)、同等の加熱条件、同等のプラズマ形状

魅力的な実験装置であること

実証する/証明/確証することが出来る(総合性能、制御、モデリング予測) これまで出来なかったことができる/これまで分らなかったことが分る

渡河 (自由境界限界以上、電流拡散時間以上、壁粒子飽和時間以上 etc.) 将来の研究の発展に対応する「場」となる柔軟性

Ma	ain Issues	ITER	DEMO	Requirements for devices		Main Issues	ITER	DEMO	Requirements for
Demonstration		Integrated Performance required for Q=10 in ITER	Integrated performance required for DEMO			confinement	Confirmation / extrapolation to ITER (mainly H-mode) DEMO (advanced Operatic		High Ip and large plasmas
	Identification of	stability limit, density limit etc. in	Internetion of the			low collisionality & normalized gyro radius at high density			
operational boundaries Development of Integ- integrated control	stability limit, density limit etc. in high [p] ITER-like plasmas high βN & high bootstrap & radiative plasmas Test of controls for ITER at Development of Integrated Control for highly self-regulating	followings	Confine-	The second s	dominant electron heating		NNB & ECH		
		radiative plasmas	Off-axis NNBCD	ment & Transport	heat, particle, momentum transport and	low central fueling		THE & LOT	
		Development of Integrated Control for highly self-regulating				rotation effects including low external torque input		CO/CTR/Perp-NB NNB & ECH	
ration	and study on plasma response	configurations	high βN & high bootstrap & radiative plasmas		confinement	- confin	Response & Control of burning plasmas	Response & Control of transport in highly self-regulating plasmas	CO/CTR/Perp-NB NNB & ECH, puff, pollot
	current profile	relaxed j(r) with	relaxed J(r) with	Long Bulco - 100c		AE		Stabilization / Control of AE at high fast ion beta.	
ļ	Particle Control	Dootstrap fraction <50% Dootstrap fraction >50% ptrol Particle Control under saturated wall condition		Long Fuise Floos	Long Pulse ~ 100s	Transport	Study transport of	Study transport of high energy particles	
1	Equilibrium	Fully superconducting operation		Super Conducting	Energy particle	Interaction with MHD modes	Clarify Interaction of high energy ions with various MHD modes		power NNB
	Control	Demonstrate long nulse high BN Demonstrate long nulse high BN		TF & FF COIS	TF & FF COILS	NBCD	High energy NBCD	High energy off-axis NBCD	
	high β operation boundary	~3 and determine stability	24 .Determine stability boundary. Clarify plasma shape effects	Low-A, strong shaping, NNB		L-H transition	low collisionality at high ne electron heating	highly shaped configuration	High Ip and large
	RWM	RWM Control with internal coils Compatibility with RMP	RWM stabilization with rotation	RWM control-coil Rotation Control	Pedestal	Pedestal structure	Pedestal characteristics at high current & high density	Pedestal characteristics with highly shaped configuration	shaped plasmas
MHD Siability	NTM	Efficient real time control with ECCD, Compatibility with RMP	Simultaneous stabilization of NTM & RWM at high βN>4	ECCD, NNB, CO/CTR/Perp-NB		ELM control	Behavior of type I ELMs Mitigation with RMP and pellet	small/no ELM regime development at high βN	RMP, highly shaped, Rotation Control
Disruption Disruption	Fast VDE control by VS-coil, Mitigation by large amplitude magnetic fluctuation or		Fast position – control coil, Killer		Particle Control	Main and impurity particle control with Fueling & Pumping satisfying required integrated performance		Strong Pumping, Pellet, puff	
	mitigation	gation Increase of electron density		gas injection and helical fields	Divertor &	Power handling	ITER-like divertor configuration with high heating power	Large radiation fraction with high confinement	ITER-like divertor divertor puff&pum
	Disruption prediction	Develop prediction scheme such as using Neural network	Disruption limits & behavior at high βN & high radiation	Active MHD diagnostics		compatibility with high performance	carbon / metal wall material	advanced wall material and	Replaceable

ITER及び原型炉 に必要な主要研 究ニーズと、要求 される機器性能を 分析



ITER及び原型炉に必要な主要研究ニーズを 満足するよう設計

核融合炉の信頼性・安全性・経済性向上を目指した研究開発を実施するため、ITER&原型炉を見通 すことができる装置規模(ITER&原型炉級の無次元量領域)、かつ機動性に富んだ装置として最適化。

JT-60SAの特長

大型招伝導装置

高形状ファクタープラズマ

高パワーで多様な加熱・電流駆動機器 高いプラズマ安定制御能力 高いダイバータ熱・粒子制御能力

多様な高分解能計測群

各研究分野をITER・原型炉領域に拡張、 その統合によって、これまで実現されていない原型炉 に必要な高い総合的プラズマ性能を定常維持する。

JT-60SAの使命:原型炉の姿を決定する





41MWx100sの大パワー・多彩な加熱システム

世界で最も多彩な、加熱・電流駆動・運動量注入の組み合わせが可能

NB: 34MWx100s

正イオン源NB 85keV 12units x 2MW=24MW CO接線x2u, 4MW CTR接線x2u, 4MW 垂直x8u, 16MW

負イオン源NB 500keV, 10MW Off-axis for NBCD

ECRF: 110GHz, 7MW x 100s

9 Gyrotrons,

4 Launchers with movable mirror >5kHz modulation





ITER & 原型炉と同等な加熱条件・スキャンが可能



¹³



ITER & 原型炉のためのダイバータ熱流束研究

CFC モノブロックターゲットの開発

12本のフルサイズ試験体をJEBISで試験(15MW/m2) =>半数が合格=>歩留まり向上の研究中



8段階のダイバータ粒子排気で、 ダイバータ熱流速を制御



14



JT-60SA、ITER、原型炉を包括する研究が大切

原型炉へ向け、ITERを含めた、総合的リサーチプランが重要

- ITERに先行する実験・試験によるITERへの貢献(研究&研究者)
- 2. ITERと協力して行なう原型炉への貢献
- 3. ITERを補完する原型炉への貢献
- 4. JT-60SAの特長を活かした/JT-60SAでこそ行うことのできる研究
- 5. わが国のコミュニティ/研究者の育成と国際主導性の堅持・向上



←<u>↓7-6054</u> JT-60SAリサーチプラン(SARP) Ver.3.0が完成

・JT-60SAリサーチプランVer.3.0(日欧案)を平成23年12月22日に完成し、サテライトトカマク事業の文書として確定し、日欧のWebサイトで公開した。

・共著者数は332名で、日本145名(原子力機構73名及び国内大学等(14研究機関)の研究者72名)、欧州182名(10カ国、23研究機関)、プロジェクトチーム5名。

・JT-60SAリサーチプランは、JT-60SA計画のミッションに従って、JT-60SAを用いてどのような研究を進めていくかについて、運転領域開発、MHD安定性と制御、輸送と閉じ込め、高エネルギー 粒子挙動、ペデスタル及び周辺プラズマ、ダイバータ・プラズマ壁相互作用、核融合炉工学、理論 モデル・シミュレーションコードに関する8つの研究領域毎に、JT-60SAの実験研究を担う若手研究者を中心に企画・提案する文書。実験開始に向けて検討・改訂を重ね育てて行く。

・核融合エネルギーフォーラムを中心とする国内研究コミュニティにおいて様々な議論を進めて 2011年2月に完成させたVer.2.1(国内案)を基に、欧州EFDAの協力の下、2011年5月に欧州内 での検討活動体制が正式に発足したことを受け、日欧の研究コミュニティで密接な議論を重 ね、10月の第一回JT-60SA研究調整会合を経て完成。





JT-60SAリサーチプランは、幅広い日欧検討の賜物

				2011年6月20日	敬称略		
	核融合エネルギーフォーラム調整委員会			1 1100 Galara			
	プラズマ物理 炉工学会	星クラスター& フラスター	核融合開発戦 略サブクラス ター	核融合 ネットワーク	欧州	欧州EFDAの協力の下、2011年5月に欧クロション	
分野	検討代表者 JAEA	検討代表者 大学等	検討代表者	意見集約 世話人	検討代表者	内での検討活動体前が正式に光足	
全体計画	鎌田 裕	高瀬 雄一 (東大)		· /:	D. Borba (EFDA)	Japan Fusion Satellite Tokamak Project EU Fus	
運転領域開発	鈴木 隆博	長崎 百伸 (京大)	- 岡野 邦彦 (電中研) - 原型炉の観点 からの研究 ニーズ		E. Joffrin (JET/CEA, France)	Japan Steering EU	
MHD安定性と制御	松永剛	古川 勝 (東大)			T. Bolzonella (RFX, Italy)	Fusion Project Committee	
輸送と閉じ込め	吉田麻衣子	田中 謙治 (NIFS)		小川 雄一	M. Romanelli (CCFE, UK)	Energy JA Project EU EFDA Forum Home Team Home	
高エネルギー粒子 挙動	篠原 孝司	長璧 正樹 (NIFS)		(東大)	P. Lauber (IPP, Germany)	Team (JAEA) Research (F4E	
ペデスタル及び 周辺プラズマ特性	浦野 創	森崎 友宏 (NIFS)			M. Beurskens (CCFE, UK)	Coordination Meeting	
ダイパータ、SOL、 プラズマ・材料相互 作用	仲野 友英	坂本 瑞樹 (筑波大)			R. Neu (IPP, Germany)	JT-60SA Research Unit	
モデリング・ シミュレーション	林伸彦	福山 淳 (京大)			G. Giruzzi (CEA, France)	JT-60SA Research Plan	
炉工学 (ブランケット・材料・ 統合技術等)	模枝 幹男 (JAEA) 櫻井 真治 (JAEA)	相良 明男 (NIFS)			C. Day (KIT, Germany)	ITER Research Plan	
Appendix	10	89°	38: 	日本	歐州	DEMODESIGN	
Needs for heating and current drive systems			M. Yoshida	C. Sozzi (IFP/Milan, Italy)			
Needs for diagnostics			M. Yoshida	F.P. Orsitto (ENEA, Italy)	○H24年度は、モデリング研究や課題の■		
Needs for magnetic field control and detectors			G. Matsunaga	T. Bolzonella (RFX, Italy)	味、重点研究項目の選択等を行なう。そ		
Needs for par	ticle control a	octuators		T. Nakano	C. Day (KIT, Germany)	のための国内及び日欧の研究協力を通	
日本検討取纏	鎌田 裕(JAE	A)	日本事務局	吉田 麻衣子 (JAEA)		Z	
欧州検討取纏	D. Borba (EFD	A)or G. Giruzzi	欧州事務局	G. Giruzzi (CEA, France)		් ට 0 1	



第2章全体計画

JT-60SAの基本ミッション、装置の特長、ITER・原型炉貢献として求められる研究課題、研究段階、以上に基づいた基本放電シナリオ、各分野での研究概要、等の全体像を記述

JT-60SAの使命:ITERの主要ミッションの達成に貢献する。 制御性を含め現実的な原型炉の姿を決定する。

原型炉目標を「点」ではなく「領域」として捉え、

運転バウンダリの拡張・高い総合性能の獲得・プラズマ制御性の実証を進め、 原型炉に求められる現実的な回答を得る。





ITER(燃焼) + SA(高 ß 高BS)+ モデリング= 原型炉

燃焼プラズマ(ITER)と高ベータ高自発電流プラズマ(JT-60SA)の 両者のプラズマの振る舞いを統合して理解し、原型炉の予測 を可能とするモデリングの開発が不可欠。





原型炉へ向けた「ミニマム制御」の確立





3章 運転領域開発

ITERに貢献しDEMO設計指針を提示するため、運転手法と制御手法の研究開発および電流駆動研究を行うと共に、以下のJT-60SAのミッション目標を達成する。



21



第4章 MHD安定性と制御

高い形状ファクター(~7)、安定化板、RWM制御コイル、誤差磁場補正コイル、高パワー加熱・電 流駆動・運動量入射 等で、高ベータ定常化研究を推進する。 原型炉のためには、RWM安定化に必要な回転速度下限を明らかにする必要有。 高β_N でのディスラプション限界の同定と実時間予測・回避制御

[主な研究項目]

- RWM物理と制御に関する研究
- NTM物理と制御に関する研究
- Sawtoothに関する研究
- Disruptionに関する研究
- 誤差磁場に関する研究
- 先進的MHD制御によるシナリオ開発
- MHD帰還制御システムの確立





ITERと原型炉への重要課題

- 高ベータ値で高自発電流割合の運転領域における,高性能プラズマの定常維持.
- 未知なるパラメータ領域における プラズマの構成要素である粒子,熱,運動量の輸送と閉じ込め評価/予測.
- 燃焼プラズマに特徴的な電子加熱主体化でのプラズマ輸送と閉じ込め評価.
- 高エネルギーのα粒子が存在する中でのプラズマ 輸送の評価.

JT-60SAでの主な研究テーマ

- ITERや原型炉に近い高ベータ値で高自発電流割 合の運転を活かし、プラズマ性能を決めるプラズ マの圧力・回転・電流分布の相関関係の研究.
- プラズマの輸送を記述するパラメータ領域で実験可能な利点を活かし、プラズマの粒子、熱、運動量の輸送と閉じ込め研究.





- 強力な電子加熱機器 (ECRF, NNBI) を利用した, 電子加熱主体化でのプラズマ輸送と閉じ込め研究.
- ITERや原型炉と相似形のプラズマ形状における閉 じ込めスケーリングの構築.
- 高エネルギービーム入射を利用した, 高エネル ギー粒子が多く存在する条件での閉じ込め研究.
- 高閉じ込め、高密度領域における輸送特性の研究.
- 実験データと比較をしながらモデリング/コードの 開発する.開発したモデリング/コードを用い,輸 送現象を理解と,ITERや原型炉でのプラズマ性能 予測を行う.
- 実時間安定化解析を備えた,統合非線形実時間制 御システムを構築し,高ベータ値で高自発電流割 合を伴う高性能プラズマの定常維持を達成する.



実験データ,理論/モデリングシミュレーション,実時間制御を駆使して核融合プラズマの理解を進め,ITERや原型炉でのプラズマ性能評価と運転シナリオに貢献する.



第6章 高エネルギー粒子研究

- 核融合炉では、プラズマ加熱の大部分を核融合生成物で高速イオンのα粒子が担い、これがプラズ マ中に良く閉じ込められている必要がある。そのため、高速イオンの特性の理解が当該分野での最重 要課題の一つとなっている。

- JT-60SAでは500 keVのNNBを用いて、核融合炉の運転領域に相当する条件での高速イオンの特性の研究を行うことができる(図参照)。この特性を活かした研究計画を策定した。

- JT-60SAではNNBを用いた高エネルギー粒子実験で、十分先んじて、ITERの燃焼プラズマ実験(DT 実験)に貢献できる。

- 日欧で協議し、以下を重点項目と設定した。
 (1)NNBによる周辺部電流駆動特性研究
 (2)高い規格化ベータ値での高速イオンの役割り(高いプラズマ性能と高速イオンの相乗効果による新現象/新領域での物理研究)
 (3)核融合炉の制限された環境での使用を考慮した高速イオン計測器の開発、及び、高速イオンとそれが引き起こす物理現象の特性を利用したバルクプラズマ計測器の開発





第7章 周辺及びペデスタルの物理

トカマクの基本的改善閉じ込めモード(Hモード)の性能を決定する「周辺ペデスタル」の構造と、 そこで発生する不安定性(ELM)の研究を扱う。

ITERのQ=10運転のプラズマ性能はペデスタル構造で決まる。 ITERに近接する無次元量領域で、その構造&制御の支援研究を行なう。 軽水素/ヘリウムプラズマでのITER初期運転への支援研究を行う。

ELM(ダイバータへの瞬間的熱パルス)の緩和:ITERの最大の課題の一つ。 ITERと同等な十分低いペデスタル衝突度での緩和研究(RMPコイル/ペレット)が可能



ペデスタル構造やELMは、プラズマ形状に大きく左 右される。原型炉と同等な形状及び近接するプラズ マ無次元量領域での研究を推進。





第8章 ダイバータ、周辺プラズマ、プラズマ壁相互作用





第9章 核融合炉工学

- (1) プラズマ対向機器開発(中性子を除く実機環境での検証) 原型炉およびITER(TBM等)に向けた機器開発支援研究
 - ・計装、ブランケット構造のモックアップ試験(中性子環境以外)
 - ・磁性体のプラズマへ影響評価
 - ・実機体系での中性子輸送のモックアップ試験(コード検証)
 - ・金属ダイバータ実機試験
- (2) プラズマ材料相互作用研究(金属壁の成立性の検証) 原型炉に向けたプラズマ材料相互作用研究
 - 金属壁装置での水素同位体吸蔵
 - ・金属壁材料の損耗、脆化
 - ・(金属)ダストの発生と安全性に関する研究
 - ・新規材料のプラズマ照射試験

真空容器 第一壁 タライオスタット す ポート

ポート(の一部)を用いた モックアップ試験、 試料照射試験等

- (3) 周辺工学技術開発(実機試験と運用経験)
 - 原型炉およびITERに向けた周辺工学技術の開発と信頼性向上
 - ・遠隔保守技術の実機試験と運用、キラーペレット等の先進制御技術の高度化
 ・大型装置&長パルス運転での
 - 燃料供給、排気、冷凍機、電源、加熱装置、CODACの運用



第10章 理論モデルとシミュレーションコード

- モデルとコードは、高ベータ・高自発電流割合の燃焼プラズマの複雑現象を解明し、ITERや原型炉のプラズマの挙動を予測・制御するのに不可欠

- モデルとコードを用いて、実験で未解明の現象を予測し、予測を確かめる実験を策定。 実際の実験によりモデルとコードの妥当性の検証。

- SA実験では、高ベータ・高自発電流割合のプラズマでのモデルとコードの検証が可能。ITER実験で、燃焼プラズマでの検証を行える。

 原型炉プラズマの挙動を確実に予測するためには、SA実験とITER実験の両方で検証 する必要がある。
 2010





まとめ

「炉心プラズマ:システムとして最適化=>高い「総合」性能と、その制御 ITER + JT-60SA + モデリング・シミュレーション

JT-60SA: ITERに貢献、ITERを補完、原型炉の姿を決める 日欧及び国内の研究拠点 日欧で機器製作が進展 日欧300名の研究者で研究計画を策定中



JT-60SAは、将来、皆さんが率いて行く 研究プロジェクト

その世代が原型炉のプラズマを 着火させる